

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成19年8月30日(2007.8.30)

【公開番号】特開2006-154121(P2006-154121A)

【公開日】平成18年6月15日(2006.6.15)

【年通号数】公開・登録公報2006-023

【出願番号】特願2004-342776(P2004-342776)

【国際特許分類】

G 0 9 B 15/00 (2006.01)

G 1 0 G 1/00 (2006.01)

G 1 0 H 1/00 (2006.01)

【F I】

G 0 9 B 15/00 C

G 1 0 G 1/00

G 1 0 H 1/00 1 0 2 Z

【手続補正書】

【提出日】平成19年7月6日(2007.7.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

曲を構成する各音を表す楽曲データから鍵操作する動作の切れ目を検出し、検出した切れ目で区切られる各区間を指定するフレーズデータを生成するフレーズデータ生成手段と、
前記フレーズデータ生成手段により生成されるフレーズデータが指定する各区間毎に、
鍵操作するのに最適な手の位置を設定する設定手段と、

前記設定手段により設定された手の位置に対応して鍵操作する各指の内、弾くべき鍵に最も近い指を弾くべき指に割当てた運指データを生成する運指データ生成手段と
を具備することを特徴とする運指情報生成装置。

【請求項2】

曲を構成する各音を表す楽曲データから鍵操作する動作の切れ目を検出し、検出した切れ目で区切られる各区間を指定するフレーズデータを生成するフレーズデータ生成手段と、
前記フレーズデータ生成手段により生成されるフレーズデータが指定する各区間毎に、
その区間において鍵操作される最も高い音高の鍵位置と最も低い音高の鍵位置とで定まる操作範囲に対応した手の位置を設定する設定手段と、

前記設定手段により設定された手の位置に対応して鍵操作する各指の内、弾くべき鍵に最も近い指を弾くべき指に割当てた運指データを生成する運指データ生成手段と
を具備することを特徴とする運指情報生成装置。

【請求項3】

曲を構成する各音を表す楽曲データから鍵操作する動作の切れ目を検出し、検出した切れ目で区切られる各区間を指定するフレーズデータを生成するフレーズデータ生成手段と、
前記フレーズデータ生成手段により生成されるフレーズデータが指定する各区間毎に、
その区間において鍵操作される最も高い音高の鍵位置と最も低い音高の鍵位置とで定まる操作範囲に対応した手の位置を設定する設定手段と、

前記設定手段により設定された手の位置に対応して鍵操作する各指の内、指位置が弾くべき鍵より低音側に位置し、かつ押鍵操作されていない指を弾くべき指に割当てた運指デ

ータを生成する運指データ生成手段と
を具備することを特徴とする運指情報生成装置。

【請求項 4】

曲を構成する各音を表す楽曲データから鍵操作する動作の切れ目を検出し、検出した切れ目で区切られる各区分を指定するフレーズデータを生成するフレーズデータ生成処理と、前記フレーズデータ生成処理により生成されるフレーズデータが指定する各区分毎に、鍵操作するのに最適な手の位置を設定する設定処理と、
前記設定処理により設定された手の位置に対応して鍵操作する各指の内、弾くべき鍵に最も近い指を弾くべき指に割当てた運指データを生成する運指データ生成処理と
をコンピュータで実行させることを特徴とする運指情報生成処理プログラム。

【請求項 5】

曲を構成する各音を表す楽曲データから鍵操作する動作の切れ目を検出し、検出した切れ目で区切られる各区分を指定するフレーズデータを生成するフレーズデータ生成処理と、前記フレーズデータ生成処理により生成されるフレーズデータが指定する各区分毎に、その区分において鍵操作される最も高い音高の鍵位置と最も低い音高の鍵位置とで定まる操作範囲に対応した手の位置を設定する設定処理と、
前記設定処理により設定された手の位置に対応して鍵操作する各指の内、弾くべき鍵に最も近い指を弾くべき指に割当てた運指データを生成する運指データ生成処理と
をコンピュータで実行させることを特徴とする運指情報生成処理プログラム。

【請求項 6】

曲を構成する各音を表す楽曲データから鍵操作する動作の切れ目を検出し、検出した切れ目で区切られる各区分を指定するフレーズデータを生成するフレーズデータ生成処理と、前記フレーズデータ生成処理により生成されるフレーズデータが指定する各区分毎に、その区分において鍵操作される最も高い音高の鍵位置と最も低い音高の鍵位置とで定まる操作範囲に対応した手の位置を設定する設定処理と、
前記設定処理により設定された手の位置に対応して鍵操作する各指の内、指位置が弾くべき鍵より低音側に位置し、かつ押鍵操作されていない指を弾くべき指に割当てた運指データを生成する運指データ生成処理と
をコンピュータで実行させることを特徴とする運指情報生成処理プログラム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

請求項 4 に記載の発明では、曲を構成する各音を表す楽曲データから鍵操作する動作の切れ目を検出し、検出した切れ目で区切られる各区分を指定するフレーズデータを生成するフレーズデータ生成処理と、前記フレーズデータ生成処理により生成されるフレーズデータが指定する各区分毎に、鍵操作するのに最適な手の位置を設定する設定処理と、前記設定処理により設定された手の位置に対応して鍵操作する各指の内、弾くべき鍵に最も近い指を弾くべき指に割当てた運指データを生成する運指データ生成処理とをコンピュータで実行させることを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

請求項 5 に記載の発明では、曲を構成する各音を表す楽曲データから鍵操作する動作の切れ目を検出し、検出した切れ目で区切られる各区分を指定するフレーズデータを生成する

フレーズデータ生成処理と、前記フレーズデータ生成処理により生成されるフレーズデータが指定する各区分毎に、その区分において鍵操作される最も高い音高の鍵位置と最も低い音高の鍵位置とで定まる操作範囲に対応した手の位置を設定する設定処理と、前記設定処理により設定された手の位置に対応して鍵操作する各指の内、弾くべき鍵に最も近い指を弾くべき指に割当てた運指データを生成する運指データ生成処理とをコンピュータで実行させることを特徴とする。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１０

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１０】

請求項６に記載の発明では、曲を構成する各音を表す楽曲データから鍵操作する動作の切れ目を検出し、検出した切れ目で区切られる各区分を指定するフレーズデータを生成するフレーズデータ生成処理と、前記フレーズデータ生成処理により生成されるフレーズデータが指定する各区分毎に、その区分において鍵操作される最も高い音高の鍵位置と最も低い音高の鍵位置とで定まる操作範囲に対応した手の位置を設定する設定処理と、前記設定処理により設定された手の位置に対応して鍵操作する各指の内、指位置が弾くべき鍵より低音側に位置し、かつ押鍵操作されていない指を弾くべき指に割当てた運指データを生成する運指データ生成処理とをコンピュータで実行させることを特徴とする。

【手続補正５】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１１

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正６】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１２

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正７】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１３

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正８】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１４

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正９】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１５

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正１０】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１６

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 7

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 8

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 9】

請求項 1、4に記載の発明によれば、曲を構成する各音を表す楽曲データから鍵操作する動作の切れ目を検出し、検出した切れ目で区切られる各区間を指定するフレーズデータを生成し、フレーズデータが指定する各区間毎に、鍵操作するのに最適な手の位置を設定する。そして、設定された手の位置に対応して鍵操作する各指の内、弾くべき鍵に最も近い指を弾くべき指に割当てた運指データを生成するので、曲進行に応じて移動する手の位置を考慮しつつ、弾き易い指使いの運指情報を生成することができる。

【手続補正 1 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 0】

請求項 2、5に記載の発明によれば、曲を構成する各音を表す楽曲データから鍵操作する動作の切れ目を検出し、検出した切れ目で区切られる各区間を指定するフレーズデータを生成し、フレーズデータが指定する各区間毎に、その区間において鍵操作される最も高い音高の鍵位置と最も低い音高の鍵位置とで定まる操作範囲に対応した手の位置を設定する。そして、設定された手の位置に対応して鍵操作する各指の内、弾くべき鍵に最も近い指を弾くべき指に割当てた運指データを生成するので、曲進行に応じて移動する手の位置を考慮しつつ、弾き易い指使いの運指情報を生成することができる。

【手続補正 1 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 1】

請求項 3、6に記載の発明によれば、曲を構成する各音を表す楽曲データから鍵操作する動作の切れ目を検出し、検出した切れ目で区切られる各区間を指定するフレーズデータを生成し、フレーズデータが指定する各区間毎に、その区間において鍵操作される最も高い音高の鍵位置と最も低い音高の鍵位置とで定まる操作範囲に対応した手の位置を設定する。そして、設定された手の位置に対応して鍵操作する各指の内、指位置が弾くべき鍵より低音側に位置し、かつ押鍵操作されていない指を弾くべき指に割当てた運指データを生成するので、曲進行に応じて移動する手の位置を考慮しつつ、弾き易い指使いの運指情報を生成することができる。

【手続補正 1 6】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 2
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 1 7】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 3
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 1 8】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 4
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 1 9】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 5
【補正方法】削除
【補正の内容】